

あしたの風

編集・発行：男女共同参画あきたF・F推進員、大潟村

2025.3発行

あきたF.F推進員 柏 雄子

大潟村では今、確定申告で忙しい時期ですが女性の賃金はどうなっているでしょうか。社会では男性と女性の賃金格差は、男性100とすると女性は70弱で社会の「映し鏡」だと言えるでしょう。

日本では男性が外で働き、女性は家庭を守るという「性別役割分業意識」が根強く残っているが、家庭の平等が進まない限り、管理職等を希望する女性は増えない。

ジェンダーギャップ指数が反映され、性別による差別をなくし、全ての人々が能力を発揮できる社会を実現するためには、何が求められているのか。

「大潟村男女共同参画社会行動計画」において目指す将来像に基づいて、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが年齢や性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の形成を村民とともに進めていく…。現在、大潟村男女共同参画推進委員がいますが、令和8年度の第5次大潟村男女共同参画社会行動計画の策定に向けて、日常生活など、身近なところから、どんな大潟村にしていきたいか考えていきたいと思います。



<見える化マップ県内市町村では>

○議会の女性議員

大潟村25.0% 上小阿仁村25.0% 五城目町23.1% 北秋田市27.8%

○公務員管理職に占める女性の割合

大潟村22.2% 羽後町47.8% 五城目町29.4% 上小阿仁村28.6%

○自治会長に占める女性の割合

大潟村0.0% 小坂町6.8% 上小阿仁村5.0% 三種町2.9%

日本社会もようやく変わり始めたか

あきた F・F推進員 三村 敏子

「男性の家事育児応援セミナー」がANAクラウンホテルで行われました。秋田県あきた未来創造部次世代・女性活躍支援課の主催です。

講演は、講師に労働政策研究の池田心豪氏、演題は「女性活躍時代の男性の働き方と家事・育児～令和モデルに向けて」でした。私が一番印象に残ったのは、

…平成時代は二重負担になっていた。女性が働くことが普通のこととなったが、家事・育児は主に女性の仕事のままで、男性はこれまで通りの働き方に家事育児がプラスされ、女性も男性も大変な時代だった。令和は、二重負担からの自由化。平成24年男性の育休取得率は1.89%だった。令和5年は、37.9%になった。男性の育休取得率が上がってきたが、女性の育休取得期間が減っていない。これからは、女性が早く復職できるように、短時間労働を取り入れ、男女とも6時間労働にするなどした方が、労働力の確保とともに女性の活躍にもつながる。…



というお話でした。デンマークに少し近づいた気がします。国の法律、育児・介護休業法が改正され、令和7年度中から事業主は、①・始業時刻等の変更・テレワーク等(10日/月)・保育施設の設置運営等・新たな休暇の付与(10日/年)・短時間勤務制度の中から、2つ以上の制度を選択して、フルタイムでの柔軟な働き方にする必要がある。また、②残業免除の対象が拡大されます。「3歳に満たない子供を養育する労働者」から、「小学校に就学前の子を養育する労働者」③3歳に満たない子を養育する労働者が、テレワークを選択できる措置を講ずることが事業主の努力義務に。④子の看護休暇の対象が小学校の就学に達するまで、から 小学校3年生終了までに延長されます。国の法律も徐々にではありますが、変わってきています。

そのあとパネルディスカッションが行われ、秋田銀行・清水組・伊藤工業の3人が育休取得の経験談をお話されました。お話では、妻の妊娠がわかった時に会社に伝え、面談し出産予定報告書を提出するルールになっている。そのことにより仕事の計画が立てやすい。建設業に若い人が入ってこなくなったが、働きやすい会社にし、仕事も家庭も両立できるバランスがとれるようにしたら、人材確保につながった。男性の育休取得率は100%になっている。1時間単位でとれる休業制度がある。などなど情報が満載でした。

大潟村も男性も女性も働きやすく、男性の家事育児も当たり前、女性の管理職当たり前の社会になる日が近いといいなと思いましたが、どうでしょうか。

令和6年度 大潟村男女共同参画事業

男女共同参画講座 2月16日

ふれあい健康館ボランティア活動室

講師に秋田大学文化学部教員和泉浩氏による演題「男女共同参画とアンコンシャスバイアス」の講座が健康館で行われました。参加された齊藤美智子さんから、感想を寄せていただきました。

日本における男女共同参画の現状を見ると、ジェンダーギャップ指数は146か国中の118位(2024年)となっています。また給与額の男女間格差を見ると男性が高く、年齢が上がるとともに差が拡大します。これは、女性が男性の補助的役割であるという意識の表れで、女性の正当な評価がされていないことに原因があるのではないかと思います。

アンコンシャスバイアスとは、性別・出身地・学歴・未婚など私たちが気付かずに持っている考え方やイメージのことです。女性は女性らしい感性がある、男性は仕事をして家計を支えるべきだ、など今までの社会通念に疑問を持つべきなのかもしれません。

大人の様々な思い込みが、子供たちの可能性を狭めることにもなるので、私たちの意識を変えながら何ができるかを考える良い機会となりました。 齊藤美智子



＊＊和泉先生から私たちへのメッセージ＊＊

みなさん、どんな日本、どんな秋田、どんな大潟村にしていきたいですか？

大潟村の人たちがどうあって欲しいですか？

男女共同参画には時間がかかります。

すぐに女性議員や管理職、リーダーが増えるわけではありません。

待っているとどんどん遅れます。

不平等な状態は男性にとってもマイナスなことがたくさんあります。

何が必要か、何ができそうか、考えてみてください。

『虎に翼』の「はて？」のお話 前回の続き

あきたF・F推進員 藤村 幸

大潟村に来てからの25年を振り返ると、両親を見送り、息子も社会人となり、ようやく自分自身を見つめ直す時間が持てるようになりました。「はて？」眠れないような悩みは誰に話せばよいのでしょうか？家庭の悩みや誰かに言いにくいことはどこに相談すべきでしょうか？「自分で乗り越えるしかないのか」と涙を流していた若い頃の自分に、今なら何と言ってあげるでしょう。「はて？」変わらなければならないのは私なのか？時代が変わり機械化が進んでも、農家の悩みは本当に変わったの？と思っても、大きな声では言えないのはなぜでしょう。果たして本当に「自分らしく生きられる時代」に変わったのでしょうか。声を上げられない方に伝えたい言葉、「私も同じように悩んでいます」。

女子校で過ごした中学・高校時代、友人たちの多くは卒業後に短大に進学、または就職を選び、成績の良い生徒は「花嫁修業」として老舗百貨店に就職する時代でした。私も大学進学を諦めて就職しましたが、社会に出てすぐに給与や立場で大学卒の男性との格差を感じました。また、妊娠中に体験した「差別」も今も忘れられません。育児休暇を経て退職したのも、今考えれば理不尽な時代に負けたからかもしれません。その悔しさから40代で大学に入学し、5年かけて卒業しました。これが実現できたのは、時代の変化と専業農業という職業のおかげだと思っています。大潟村に来て農業に従事することになりましたが、悪いことばかりではありません。

「自分次第で人生を変えられる」という希望がこの地にはあるのだと感じています。今からでも遅くないことは他にもあることを知って欲しい。その勇気ある一歩が新しい風になるのだと思います。



【お問い合わせ先】

大潟村 福祉保健課 福祉班 TEL : 0185-45-2114 FAX : 0185-45-2162